

第 45 回全日本けん玉道選手権大会の変動種目における技の解説と注意事項

⑪スーパー横はねけん（二回転横はねけん）

【持ち方】 玉の持ち方

【技の動作】

玉の穴にけん先を入れて、そのまま玉を持ちけんを水平に横に寝かせ（右利きの場合：左側にけん）て構える。けん先を抜きながらけん尻を手前に返しけんを水平に二回転させて、けん先を再び玉の穴に入れる。

【注意事項】

- ・けん先が完全に玉の穴に入ること。
- ・けん先を抜きながらけん尻を手前に返しけんを水平に二回転させるための、膝をまげる、手を上下させる等の予備動作を開始した時点で技が開始されたと見なす。
- ・技を開始した後に、けんが玉の穴から抜けなかったので、再び投げ上げるなど、明らかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。
- ・通常の二回転はねけんにならないこと。
- ・けん先を再び玉の穴に入れた後に、手首を返してけんを上方に向けてもよい。
- ・予選競技においては、審判からけん玉の見えない位置になった場合、失敗と判定する。

⑫遊覧飛行機

【持ち方】 遊覧飛行機の持ち方

二本の指で糸の中程を持ち、けん尻を手前にして遊覧飛行機の形にけんと玉を組み合わせてけん玉をつるす。

持ち替え後の持ち方 玉の持ち方

【技の動作】

糸の中程を持ち、けん玉を下につり下げて構える。つり下げたけん玉を糸を使って前方に振り出し、糸を引いてけんを手前に3/4回転させ、糸を離して玉をつかみ空中で手前に3/4回転してきたけん先を玉の穴に入れる。

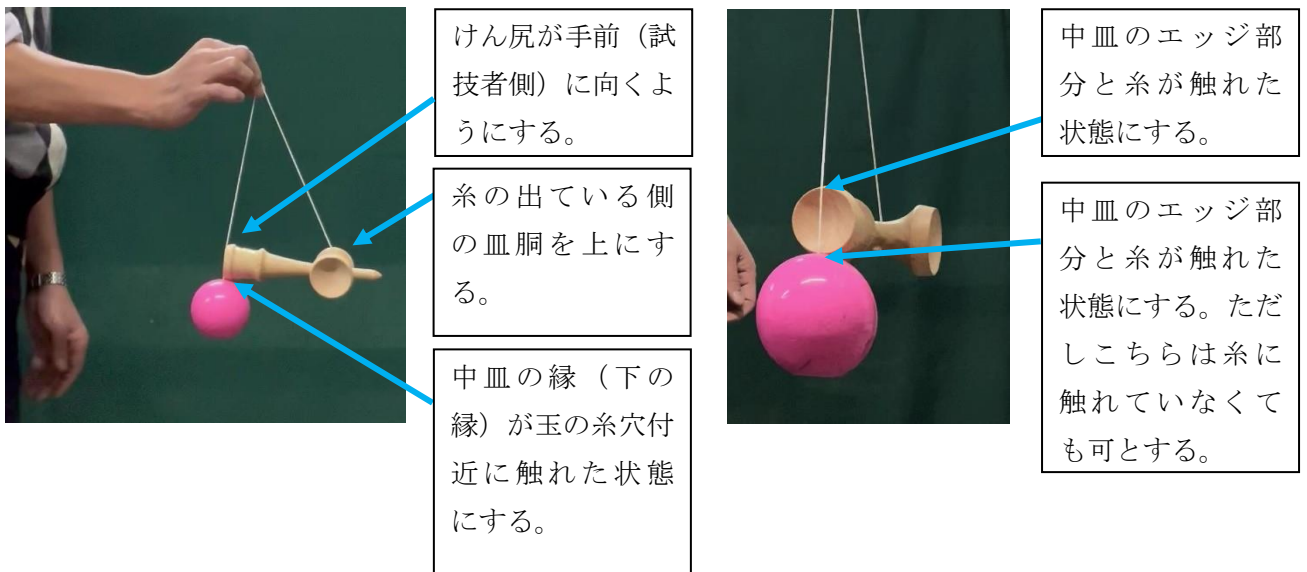
【注意事項】

- ・けん玉をつるした時、糸を指に掛けてはならない。また、糸を余らせてつまんではならない。
- ・技は片手で行うこと（つるした手で玉をつかむこと）。
- ・動作中けん又は玉の一部でも、肩幅の範囲から外に出ないこと。
- ・けん先が完全に玉の穴に入ること。
- ・つるしたけん玉を前方に振り出すために、膝を曲げ伸ばす動きや、体でリズムをとる、けん玉を前後に振り始めるなどの予備動作を行った時点で技が開始されたと見なす。
- ・けん玉を前に振り出すなど技を開始した後に、けん玉を手で押さえるなど、あきらかに技の一連の流れを止める動作を行った場合は、動作を中断しやり直したと見なす。

【持ち方の説明】

「遊覧飛行機の持ち方」

- ・糸の中程を親指と人さし指又は中指でつまみ、けん玉をつるして持つこと。
- ・糸の出ている側の皿胴を上にして、且つけん尻が手前に向くようにして、さらに玉の穴を下に向けてけん玉をつるすこと。その際に、中皿の縁（中皿の下部の縁）が玉の糸穴付近に触れた状態にし、かつ中皿のエッジ部分と糸が触れた状態で、けんを水平にすること。
- ・中皿のエッジ部分と糸は、中皿の上部のエッジと、下部のエッジの両方で触れた状態を基本とするが、下部のエッジについては糸と触れていなくても可とする。
- ・けん玉と玉の相対関係は下図を参照のこと。



●注意

ビーズが玉の穴から出ないように、糸に結び目を作ることは認められています。下図のように、この結び目が、中皿のエッジ部分に触れることで、けんが玉に接触していない状態、あるいは浮かないまでも、中皿のエッジ部分に結び目が触れていることで、けん玉の位置が緩やかに固定されることがあります。

このようなことを防ぐため、けん玉検査において、遊覧飛行機の持ち方をした際に、結び目に中皿のエッジ部分が乗る（玉からけんが浮く）けん玉や、結び目が中皿のエッジ部分に触れるけん玉は、不合格とします。

結び目がないけん玉や、図のように中皿のエッジ部分に結び目が触れないけん玉は問題ありません。ご自身のけん玉をよくご確認ください。

